

## 序

藤巻正己先生には、2017年3月をもって定年の期を迎えられます。立命館大学人文学会は、先生の積年のご功績を称え、深い感謝の意を表すため、ここに退職記念の論集を編んで献呈させていただきますこととしました。

藤巻先生は、1974年3月に立命館大学文学部地理学科地理学専攻をご卒業後、立命館大学大学院文学研究科修士課程地理学専攻に進学され、1979年3月に同研究科博士課程地理学専攻を満期退学されました。同4月に天理大学教養部講師として着任された後、1985年より助教授、1996年より教授として19年間活躍されました。そして1998年4月本学に戻られ、立命館大学文学部教授として地理学専攻において教育・研究に尽力されました。2001、2005年度の地理学専攻主任のみならず、2008～9年度には人文総合科学インスティテュート国際プログラム主任としての任を果たされました。

先生の専門分野は、主要研究業績一覧でもうかがわれるように、マレーシアを中心とする都市研究です。先生は22年続いたマハティール政権下におけるクワラルンプルの変貌を見守り、分析されてきました。それが第1の分野に挙げられた都市研究であり、他の分野をつなぐハブ的役割を果たしています。次に都市研究のサブテーマとでも呼ぶべきものが、スクォッター、先住民族、外国人労働者などの周辺化された少数者集団の研究とツーリズム研究です。立命館大学人文科学研究所に設置されたプロジェクト「貧困の文化」（1994～96年度）、「スラムの社会文化比較」（1999～2000年度）、「スラム地区住民の適応に関する比較」（2001～2005年度）、「貧困の文化と観光」（2006～2008年度）、「グローバル化とアジアの観光」（2009年度～）で江口信清先生と共に研究プロジェクトのリーダーシップを発揮しながら精力的に研究を蓄積されてきました。そして最後が、このような諸分野を俯瞰して統合する東南アジアエリアスタディです。また、先生は、観光学術学会副会長、人文地理学会理事・評議員・代議員、日本地理学会代議員を歴任されるなど、多くの学会において運営に貢献されました。また、マレーシア科学大学人文学院客員教授、上海師範大学中日人文地理与研究所特聘研究員、スルタン・ザイナル・アビディン大学訪問教授など、国際的な研究・教育交流にも取り組んでこられました。

先生の大学行政におけるご活躍は大変めざましく、さまざまな役職をこなされるなかで、必ず教育や組織の改革に成果を挙げてこられました。2002年度には文学部調査委員長として教養教育（「04改革」）に文学部が提供する諸科目の設計を取りまとめられ、翌2003年度には総合基礎教育センター副センター長として全学の立場から改革の仕上げに関わられました。2006～7年度に木村一信学部長の下で副学部長（企画担当）をされたときは、2008年度の教員組織整備計画で増加する人事枠のうち3名分の活用方法として、文学研究科で課程博士を取得した若手研究者を対象とした助教制度を設計されました。たとえば初年度（2008年度）の日本文学、日本史学分野での助教人事が、単に当該専攻の増員に留まらず、グローバルCOEや2009年度に新設

を予定していた京都学プログラムへの対応をも想定した大きな構想の一環でありました。執行部や集中拡大企画委員会は先生の完成度の高い提案文書を驚きと共に目にしたものです。2010～13年度に教養教育センター長を2期勤められたときは、教養教育04改革の手直しとなる「12改革」を仕上げ、実施への移行期を乗り切られました。さらに2014～16年度には文学部長として新たな2020改革の議論を開始されました。

藤巻先生は、磊落なお人柄、大胆な構想力、緻密な制度設計力を併せ持つ希有な大学行政人でした。私が2007年度に副学部長（教学担当）になったとき、執行部先輩の藤巻副学部長（企画担当）のお仕事ぶりから、執行部会議での振る舞い、教対会議での学部を背負った発言、学部教授会や委員会の運営などの多くを学ばせていただきました。2012年度から教学部長になった際は、学部執行部経験が支えになりましたし、奇しくも同時期に先生が教養教育センター長でいらっしゃったことで大変心強く思うことが何度もありました。藤巻先生から2016年度文学研究科長就任を依頼されたときに何の迷いもなくお引き受けしたのは、藤巻先生とお仕事をする最後の機会を逃したくない気持ちがあったからです。先生は、学部長理事として常任理事会における立命館学園の決定に貢献されたことを評価され、2017年度からは学長特別補佐（一貫教育担当）としてさらなる活躍が期待されています。

文学部教授会は、永年のご貢献に謝意を表すため、来る4月1日付で先生に名誉教授の称号をお贈りするよう手続きを進めているところです。今後とも、わたくしども後進を見守り、文学部および文学研究科の教学発展のため、ご助言を賜ることができますれば幸いです。

2017年1月30日

立命館大学文学研究科長

米 山 裕